

国立二大学の立場から

松本千代栄

「戦後50年の舞踊教育」を、国立2大学の立場から概観する。(表参照)

1. 戦後教育の指針

第2次大戦後、米軍政府管理下に、初の「学校体育指導要綱」(文部省・昭22)が示された。“人間形成”の体育目標を掲げ、“教材”を教える体育から、“自己表現”をひき出す教育へ、訓練的体育から自主的体育へと一大転換を示した要綱は、戦後新教育の精神と理想を象徴するものとしても意味をもっている。

要綱は、小・中・高校及び大学の各発達段階をおさえ、運動領域を「体操・スポーツ・ダンス」と類別し、“競争と表現”という運動文化の質をふまえた分類を提示している。即ち、「ダンス」は、従来の「音楽運動」としての体育教材から解放され、社会文化としての舞踊と同一の地平に立つものとして位置づけられた。

「(五)大学(仮称)約19年-22年」では、「身体的特徴、精神的特徴、適当な運動」を表示し、具体的には「ダンス」では「表現-表現技術・作品創作・作品鑑賞」と内容を示し、更に「民踊その他参考作品」「指導者養成では社交ダンスをとりあげてもよい」と視点をひろげている。

教育基本法(昭22)大学設置委員会(昭23)、国立新制大学(昭24)と制度化の進む中で、人間発達と教育を見とおし、「大学」までを含めた要綱からは、大学体育の確立と自主的・創造的教育への姿勢と識見が読みとられる。以後、体育科教育の中の「ダンス」は、50年後の現在まで、この基本的な方向づけを根幹として歩いてきた。

2. 専攻課程・学科の新設

「学」としての成立と評価は、制度上には“講座・学科”の設置によっておしはかれる。「舞踊学」担当教官は、先ず1952年(昭27)東京教育大学体育学部遊戯学講座に採用された。1963年(昭和38)「舞踊学」講座新設、翌'64年(昭39)大学院修士課程が認められ、日本で初の国立大学での「舞踊学」講座及び修士課程の設置となった。(体育学修士号)次に、1971年(昭46)お茶の水女子大学教育学科体育学専攻は、「表現体育学」(舞踊教育学、遊戯学、動作学講座)に改組、実質的に舞踊学・舞踊教育学を主軸とした。1973年(昭48)には、「人文科学研究科舞踊教育学」(修士課程)が新設され(文学修士号)、1976年(昭51)には、同大学「人間文化研究科(博士課程)」新設に際し、「比較芸術論」講座に“比較舞踊論”が位置づけられ、舞踊学研究は、漸く論考

に向う研究の楷梯を備えることになった。1982年(昭57)「舞踊教育学」として「学科」が独立し、国立大学では初の“舞踊”を冠した学科として整えられた。舞踊研究を志す学生は、全国から進学。とりわけ修士課程への志望者は多く、舞踊文化と教育研究の一拠点となったと認められる。

1996(平8)大学改組に伴い、「芸術・表現行動学科」と改称され、“舞踊”の名称は“学科”としては失い、現在に到っている。

3. 舞踊研究の開拓

舞踊研究は、各大学の研究紀要刊行、及び日本体育学会設立(昭25-)と共に推進され、日本女子体育連盟(昭29-)研究発表会及び研究紀要刊行などによって、先ず体育学上にその成果が公表された。舞踊学会(設立、昭50)は、舞踊文化の諸領域からの研究・教育者、演者を擁する独自の学会として設立され「舞踊学」成立と充実のための拠点として今日に至っている。

国立大学に籍をおいた筆者の範囲に限って研究視点の提出をみると、①「実態調査」(昭27-)による舞踊経験の現状把握を基底とし、②「舞踊の創作・鑑賞能力の発達」(昭41-、科学研究費)を探り③「舞踊用語の収集・分類と舞踊の構造・機能」(昭56-)の構造分析を進めて教育資料を提出④「舞踊課題と創作学習モデル」(昭56-)を具体化して創作学習に備え、他方⑤基礎研究として昭和30年以降“運動とイメージの連合”の様相を実験・実証をもって追跡し、操作上に連合の範疇を明らかにしている。また、⑥舞踊文化の特質を現象上にとらえ、上述の研究法をもって明らかにしている。(既報CHHAUの解析'82など)

他方この年月の卒業論文、修士論文指導では、学生の適性と関心に応じ、研究主題と研究方法を可能な限り広げ、舞踊文化と人間存在の追求をめざし、ひいては「舞踊学」の成立と充実を若き人材に期待した。

4. 研究交流

前述の各学会での年毎の研究報告と共に、国際女子体育会議JAPESGWにおける研究報告(1965年以降4年毎)によって研究の国際交流をはかった。特に運動現象性の文化の特性と研究成果の質を考え、論と共に演を展開し、比較文化に資し、かつ科学的操作をもって抽出した成果を広く人々のものとしようとした。会議参加によってDemonstrater(学生)の視野をひろくことをめがかった。

5. 人と進路

表に示すとおり、およそ30年間(昭30~60)に多くの人材を多方面におくり出すことができた。国立2大学の「舞踊学講座」は、個性を生かす「自由の土壌」として存在の意味を有していたと認められようか。

社会	戦後 舞踊教育 年:45 ~ '94	創造的芸術経験 民族伝承の経験 } を核とし、舞踊文化と人間教育をひろく					
		1 文部省 教育方針	2 専攻・学科の新設	3 舞踊研究の開拓	4 研究交流の拡大	5 人と進路 研究・教育ポスト/文化	
第2次世界大戦 終結	昭 20 (1945)	「学校教育 指導要綱」 小 中 高 ● △ □ 同大体育学部・遊戯学講座 (舞踊専攻人事)	①「ダンス」の名称を共有 ②体操・スポーツ・ダンスの類別 ③小・中・高・大学を含めた要綱 東京教育大学体育学部開設	研究視点と研究事例 A.実態調査 B.制作・鑑賞と人間発達 C.動きとイメージの連合(基礎研究) D.舞踊文化の形態(現象性) E.舞踊用語・舞踊の構造・機能 F.舞踊課題と創作学習	学会報告・上演 a 日本体育学会 b 日本女子体育連盟 c IAPESGW d 舞踊学会 e 上演活動 a 「日本体育学会」創立'50 b (自大学操作公演) 毎年 ↓ b 「日本女子体育連盟」創立'54	北海道大・分校② 宮城教育大 秋田 () 福島大 筑波大② 群馬大 埼玉大 () 千葉 () お茶大③ (③) (②) (②) () () () () () (/米山マモコ) () () () 横浜国大 () 山梨県立大 () 新潟大 金沢大/ (石黒節子) 福井 () 岐阜 () 静岡大△	
・教育基本法	22						
・大学設置委	23						
・国立新制大 体育局廃止	24						
NHKテレビ	26						
	27						
	28						
	29						
国連加盟	昭 30				ex.舞踊の経験(観・読・聴・行) 舞踊主題(連想) 制作・既成作品の授業比較 Fグループ学習に関する実地的研究 E著「舞踊美の研究」'57 B創案「舞踊のための音楽創案」 (約150曲) '53-'81 B美意識の発達 ー作品の受け取り方ー	b 卒業論文発表会(毎年) b (関東学生舞踊連盟) 創立 b 「子供と女子の体育」発刊'59 T. Sym ○舞踊の創作過程 ーその体育的価値'64 ○舞踊の体育的意義'65 ○学校ダンス'67	
ベビーブーム	32						
皇太子ご成婚	34						
安保闘争	35						
	36						
	37						
	38						
・東京オリンピック	39		舞踊学講座新設'63 大学院体育学研究社(修士) (含.舞踊学講座,松本)				
	(1964)						
	昭 40			B舞踊の鑑賞に関する研究 B制作・鑑賞能力の発達に関する研究 (科学研究費) 「日本女子体育連盟研究記要」'69 D舞踊の比較研究ー舞楽ー(日英) C動きの感情価に関する研究 '70-'72 D運動表現の民族的特性に関する研究 No.1白石踊(共)	b 第1回全国女子体育研究大会 '65(毎年) c 第6回国際女子体育科意義'69 IAPESGW 東京開催 (研究報告とhoc・Demo) 岡山山大 (②) 岡山県立 広島 () () c Teheran 会議'73 (全土)60名(18学生)		
・東大筑波移転	41						
	42						
	43						
・大学紛争	44						
ビデオ・カラー TV	45		3 舞踊教育学 遊戯学 動作学 お茶の水女子大学表現体育学				
	46						
	47						
	48						
低成長時代へ	49		人文化学研究科舞踊教育学新設 (修士)				
エリザベス女王来日	昭 50			No.2榎立踊(共)	d 「舞踊学会」創立'75(毎年) c Cape Town 会議'77(Film, 研究報告) d 「舞踊学」創刊'78 T. Sym. ダンスと国民スポーツ c Buenos Aires 会議'81 (全土)21名(3学生)	徳島大 (辻本早苗) 愛媛大 高知大 () 佐賀大 長崎大△ 多田慶子 長崎県立 熊本 () 宮崎大 鹿児島 (明尾真弓) 沖縄 ()	
家庭内暴力	52		人間文化研究科新設(博士) (比較芸術論ー比較舞踊) (松本)	「舞踊学」創刊'78 F 指導法研究(共)'79 E 舞踊の構造・機能と要素化'81-'84 F 舞踊課題と創作学習モデル(共) D Movement & Symbol-CHHAU 国際交流基金(英)'82 F 舞踊連想用語の収集・分析(共)'83			
	53						
	54						
・戦後教育の見直し	55						
	56						
高齢化	57		お茶大舞踊教育学科'82 (改組)				
子供人口減	58						
・臨教審	59						
	昭 60 (1985)			C 運動の質と感情価 - 7 Motives-IAPESGW (英)	c Warnick 会議'85 (全土)39名(17学生) b (ALL JAPAN DANCE FESTIVAL) c Bali 会議'89(研究報告)		
	61						
	62						
	63						
昭和天皇崩御	平 64						
	元 2						
大学設置基準大綱化	3			Y. K. 「近代舞踊の精神性と形式性」 (修論)'68 S. I. 「舞踊におけるリズムの実験的研究」 '69 H. K. 「明治期遊戯の1考察 ー女学校の運動会」'73 I. H. 「福島県の念佛芸能」(修論)'81	c Melbourne 会議'93 (全土)67名(15学生)	学位取得 (岩田)'86 頭川昭子 (三上)'97 柴真理子	
	4						
	5						
	6						
	7						
	8		芸術・表現行動学科(改組)				
	9			F 舞踊課題と創作学習モデルII(共)	c Lahti 会議'97	※ (S30~60年の二大学卒進路) () は私立大学 (敬称略)	